

特 集 「2013 年度人工知能学会全国大会 (第 27 回)」

## 第 27 回全国大会を終えて —一人間と AI の囲碁対局の行方—

松原 仁 (2013 年度全国大会委員長, 公立はこだて未来大学)

2013 年の第 27 回全国大会は 6 月 4 日から 7 日まで富山市で開催された。発表件数, 参加者人数とも地方開催をするようになってから最大であった。細かいことはいろいろあったものの, お陰様で全体としては大成功であったと喜んでいる。地方に研究者や学生が集まって昼も夜も活発に交流することが人工知能という分野の発展につながると期待する。

これだけ規模が大きくなると普通の地方都市では 1 か所では部屋を確保することができず, 今回も 3 か所の分散開催であった。3 か所の建物が比較的近い所だったので, 参加者にそう大きな不便をかけることがなかったのではないかと思っている。開催期間も 4 日間になって, 大学の教員にとっては全部に参加するのは難しかったと思われる (人工知能学会の全国大会は恒例で大学の授業のある時期に開催している)。これらの問題を抜本的に解決するのは難しいが, 問題の所在は今後の全国大会の開催にあたっての留意事項として申し送りたい。

今回の全国大会はマスコミを通して一般に人工知能をアピールする場としても活用させていただいた。福祉関係のプロジェクト, 火星探査の招待講演, 東大入試プロジェクトなどをマスコミに取り上げてもらった。ここではその一つとして著者が担当した囲碁のイベントを詳しく取り上げたい。

人間とコンピュータの囲碁の対戦を全国大会の一部として実施した。囲碁はチェスや将棋と全くルールが異なり, 場合の数も圧倒的に大きいゲームとして以前から人工知能のランドチャレンジとして世界的に取り上げられてきた (マッカーシーが以前国際会議で人工知能ランドチャレンジの候補をいくつか取り上げたときにも囲碁が含まれていた)。2000 年代半ばまではコンピュータ囲碁は全く弱かったが, モンテカルロ法の応用によって急速に強くなり, 現時点ではアマチュア 5 段程度の実力までに進歩した。武宮正樹 9 段や石田芳夫 9 段といったトップクラスのプロ棋士に 4 子のハンディで勝っている。

人間側を誰にするかプロ棋士も含めて検討していたが, 偶然にも高校生の日本チャンピオンである大表拓都

氏が富山に在住しているということを囲碁のプロ組織である日本棋院に紹介してもらい, 大表氏にコンピュータとの対戦を引き受けていただくことになった。富山で囲碁の普及に活躍されている下島陽平 8 段に解説をしていただけることになった。コンピュータ側は世界一である ZEN (作者は尾島陽児氏, 加藤英樹氏) に引き受けていただいた。

この対局は無償で誰でも観戦できるようにした。筆者が想像していた以上に富山における大表氏の知名度が高く, 大表氏と ZEN の対戦を発表したとたんに富山の新聞社やテレビ局の取材が始まった (その時点では担当の筆者は函館にいたために取材担当者との連絡は電話にならざるを得なかった)。富山の新聞に事前に大表氏と ZEN の対戦の記事が写真入りで大きく掲載された。

事前にマスコミが取り上げてくれたこともあって対局は平日の午後であったにもかかわらず多くの人々に観戦していただいた。マスコミの取材も東京からのものも含めて非常に多く, 新聞やテレビに対戦の様を取り上げてもらうことができた。それらの報道を通じて人工知能という研究分野の存在について知ってもらうことができたものと思っている。

対局は大表氏に ZEN が 3 子のハンディをもらった。結果は ZEN の 5 目半勝ちであった (最初は 2 子のハンディの予定であったが, それだと大表氏に分があったと思われる)。公開対局という人間に不利な条件で対局していただいた大表氏に感謝している (ちなみにその後大表氏は大人のアマ全国大会で準優勝するなど活躍している)。来年の全国大会でも囲碁のイベントを継続するつもりで準備を進めている。

全国大会の開催にあたっては非常に多くの方々のご協力を得た。発表者の皆様, 参加者の皆様, 富山大学を始めとした地元の皆様, イベント協力者の皆様, 事務局の皆様, 実行委員会プログラム委員会の皆様のご協力なしには実現できなかった。大会委員長として彼らに深く感謝したい。